

地域福祉活動職員の

ま な こ

地域福祉活動推進のために

No.81

2016年 9月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

社協ワーカーが つどい・語り合う 地職連 **つながるから気づき、出来ることがある・・・**

会長



①池松昌亀／全県、②大刀洗町社協、③17年目、④髪を切ることと爪を切ることが苦手な41歳既婚者です。ちなみに下の名前は「昌亀」と書いて「まさき」と読みます。「まさかめ」ではございませんのでお間違えの無いように。それと「大刀洗町」は「太」ではなく「大」ですのでお間違えの無いように。

5月13日(金)、春日市クローバープラザにおいて、2016年度福岡県地域福祉活動職員連絡会総会を実施いたしました。今年度の事業計画と合わせ、各ブロックから役員が選出され、承認されました。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

- ①名前／選出ブロック、②社協名、③社協経験年数
- ④一言PR

副会長



①建部正雄／筑豊ブロック、②香春町社協、③12年目、④全ての事業をアンテナに、与えられた使命であることを忘れず、出会い、学び、乗り越えていきたいと思いますので叱咤激励よろしくお願いいたします。

幹事



①松尾大輔／筑豊ブロック、②直方市社協、③10年目、④同世代や同期が少ない組織の中で、多くの仲間と出会えるのが地職連です。また、県内の先輩たちから学ぶことができるのも大きなメリットです。筑豊ブロックからの役員随時募集中ですので、お・は・や・め・に！

幹事



①山内機長／福岡ブロック、②須恵町社協、③12年目、④5年ぶりに幹事として戻ってきたところ役員最高齢になっていました。みんなの熱い思いに負けないようがんばります。

幹事



①中川史高／両筑ブロック、②うきは市社協、③4年目、④全国社協職員のつどいで世間を騒がせた、飲むと怖いものなくなる27歳！最近、既婚者オーラが出ていると色々な方々から言われますが…独身です！（笑）地職連は、思いや悩みをぶつける職員の当事者組織。大いに語り合しましょう！たくさんの方の参画をよろしくお願いいたします！！

幹事



①木下理美／政令市、②福岡市社協、③10年目、④他の社協の方とご一緒させていただく機会が増え、大変刺激を受けています。自分自身が学ばせていただきながら、皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思えます。

幹事



①江口信也／筑後ブロック、②広川町社協、③15年目、④前任者より「まなこ」の編集を引き継ぎました。他社協の取り組みや、社協ワーカーの熱く、時に過激なコメントをどんどん発信できればと思います。

会長退任あいさつ

●宿利幸央（志免町社協）



宿利幸央 池松昌亀

会長退任にあたり、あいさつの依頼がありましたので、一言ごあいさつさせていただきます。

私が福岡県地域福祉活動職員連絡会（以下、地職連）の会長に就任したのは、今から四年前の平成二十四年度です。それまで地職連の研修会には積極的に参加をさせていただいていたのですが、役員経験は全く無く、飛び級のような形で前会長から話があり、最初はお断りしていたのですが、「研修には参加したいけど役

員は引き受けたくない」というのは様々な方々に〇〇委員を委嘱している社協職員の立場としてすべきことではないのかなという風に考えが至り、いいとこどりな人間にならないために重責ではありましたが会長をお引き受けすることとしました。

最終的に二期四年引き受けさせて頂いたのですが、そこでの学びは他の何事にも変えられないようなものだったと思います。役員の皆さんは熱い方ばかりで、知識も豊富、住民のニーズに柔軟に応じ、今までどこもしたことが無いようなことにも積極的に取り組まれており、大変感銘を受けました。と同時に、「このワーカーが働く社協ではできて自分の社協はできていない」ということがあってはいけないと思うようになりました。

これは単純に、同じ取り組みをすること、ということではなく、住民ニーズと真摯に向き合い、熱い気持ちを持ってコミュニケーションワークを展開していくことだと思えます。地域福祉担当の社協職員は決して多くなく、社協によっては一名のところもあります。そのワーカーがどんな思いでどういった働きをするか、それによってそこに住む住民の課題が解決出来たり、出来なかつたりするという、責任ある仕事であると思います。この様に社協ワーカーがいることは、ワーカー自身のセルフヘルプであり、何よりも自分の励

みになります。

会長の役は退きましたが、ワーカーという立場は変わらず、あらゆる地域課題に立ち向かっていくためには、同じ思いを持ったワーカーたちとのつながりが必要になります。役員ではないから関係ないではなく、今後もワーカーとして主体的に関わっていきたいと思います。

会長就任あいさつ

●池松昌亀（大刀洗町社協）

四月より、この歴史ある福岡県地域福祉活動職員連絡会の会長にご指名をいただき、その重圧と不安で押しつぶされる日々を過ごしています。

元々、先頭に立って皆を引っ張っていくようなタイプではありませんし、歴代の会長のように熱き想いと深き問題意識を抱えているとは私自身思っておりません。但し、このような自分に憤りを常に感じているのも事実です。

では、今活動している社協職員はどうなのでしょう。常に問題意識を持ち、新たな福祉課題を解決すべく、地域・住民と共に率先して活動されている職員もいれば、自分の置かれた立場や環境、与えられた職務の中で、もがきながら活動されている方も多いのではないでしょう

か。（それを「仕事」と割り切っている人も少なくはないかもしれませんが）私は社協に入職して十七年ほど経ちますが、地職連の企画する研修に参加させていただき、様々な先輩や後輩との出会いやつながりの中で、自分に足りないもの、自分の活動する地域に必要な視点など様々なことを学ばせていただいたことで、出来ていないながらも今の自分があると思っています。

『福岡県地域福祉活動職員連絡会会則』の中に謳われている目的に、「会員相互の資質向上を図るとともに、活動推進上の連携に務めること」とあります。連携は一人ではできませんし、役員だけでもできません。参加して、意見を交わすこと（たまにお酒を酌み交わすこと）でお互いに繋がり、そこから連携が始まっています。

まずは参加していただきたい。参加できないのであれば、自分と同じ立場の者が県内・全国にいるということを感じていただきたい。そしていつか参加していただきたい。無責任な言い方に聞こえるかもしれませんが、多くの社協職員がこの連絡会を盛り立てていけるよう、私も役員は力添えをしていきたいと思えます。皆さんの主体的な参加を期待いたします。



【先輩ワーカーから学ぶ研修会】

「私をその気にさせた人や 言葉、それから活動に…」

と き 2016年5月13日 (金)
15:00 ~ 17:00
ところ クローバープラザ

平成二十八年度地職連総会後に、「先輩ワーカーから学ぶ研修会を開催しました。福岡市社協に二十七年間勤務し、平成二十八年三月末に正職員としては一旦区切りを迎えた、博多区社協事務局長の松尾林さんを講師に迎え、これまでの社協人生を振り返って今思うことや、松尾さんに影響を与えた人や言葉の紹介と、ご自身が取り組んだ活動などについてお話いただきました。

■報告 大倉慶子／福岡市城南区社協

今回の研修では、松尾さんの実体験から湧き上がった感情や疑問、そこから生まれた取り組みについて聞きました。あくまでも社協職員として地域福祉をベースに、ただし教科書には載っていない実体験のお話は、メモを取るのを忘れるほど、刺激的で引き込まれるものでした。

表面的なニーズだけではなく、その人自身を見つめようとしていくか・・・

特に印象的だった点は、交通費を持たないホームレスを支援したエピソードをお話いただいた中で、「表面的なニーズである『交通費』を渡して終わりではなく、本当にその人のことを心配であれば、どうして困っているのか、他に困っていることはないか聞こうとするはず」と仰ったことです。

過去に自分の経験で、相談に来た方に対してなかなか踏み込んで話を聞けないことがあり、これによかったのかと反省することがあったため、非常に心に響きました。相談を受けた際、詳しい話はつい後回しにしたり、尋ねにくく感じたりすることがあります。しかし、一人ひとりに合った支援を目指すには、その人の人となりや現状に至るまでの状況を知ることが重要になります。改めて今回のお話を伺うことで自分を振り返ることができました。

社協ワーカーとしての熱い想いと、気づき、ひたむきさ・・・

また、福祉体験やレスバイト活動の取り組みをご紹介いただく中では、当時の松尾さんの取り組みにける想いや、その気持ちからくる疑問を素直に当事者や地域住民と共有すること、そこから生まれる新たな気づきを、社協職員として活かしていくひたむきさを感じました。

このように、今回松尾さんのお話を聞いて、普段から福祉の視点で物事を見ることや、自分自身の心の動きに敏感であることが必要だと感じました。そして、そこから生まれる心のさざなみに素直に向き合い、当事者や地域住民と一緒に解決策を探ることが重要であると再認識することができました。

専門書籍を読んでも現場との乖離を感じて落ち込むこともありましたが、三十七年で蓄積された松尾さんの身近な実体験を伺うことができ、明日の社協活動の活カになりました。

【社協広報の役割について考える研修会】

「社協広報の役割とは何か」 社協の広報誌が社協の 「顔」となるためには…

と き 2015年12月4日 (金)
13:00 ~ 17:00
ところ クローバープラザ

「社協広報の役割について考える研修会」を開催しました。2社協からの実践報告をもとに、社協広報の役割や見せ方についてグループワークも行いました。

■報告 谷村歩美／久留米市社協

社協の広報の目的は

何なのか…

第1分科会では、社協広報の役割ということを主題に、実践報告とグループワークを行いました。実践報告では、まず最初に「広報を発行することが目的になっていないか」と問われました。私は、広報を発行する際の会議等をふり返り、反省しました。確かに、原稿の納期が迫るにつれ、段々と発行することが目的になっていく気がしたからです。周囲の方も何人が頷かれていたので、同じように感じられた方は少なからずいらっしゃったのだらうと思います。社協の広報の目的は「発行すること」ではないはずだ、という確認から、第1分科会は始まりました。

報告者である木原さんの発表の中で、印象的だったことを述べていこうと思います。まず、嘉麻市の広報は「伝わりなからのスタート」だったそうです。しかし、否定的な意見が多かったからこそ、伝えたいという思いが強くなったそうです。皆さんは、自分の社協の広報紙に、地域住民から何か意見をもらっているでしょうか。私が広報の編集委員になってからの間で、情報を載せてくれてありがとつ、という言葉はいただいて、広報紙のここが良かった、あるいは良く

なかったというような意見は、いただいたことが無いです。関心を向けてもらえる広報紙というのは素敵だなと思えました。

報告の最後には、広報紙がもつ力として、「地域の課題を提起し、ともに考えともに学ぶ」という言葉をあげられました。広報紙がただの情報発信ツールではなく、発信した後どうするか、どう活かしていくか、という視点も大切だということ学びました。

何を目的に伝えるのか、社協広報の役割りとは

グループワークでは、①広報の役割と、②広報の役割を共有するために必要な事、という2点について話し合い、各グループの意見を聞きました。広報の役割を話し合う中で一番多かったのは、社協が何をしているのか伝えられる、というような意見でした。社協がどんなことをしているところなのか知らない地域住民がまだいる中で、社協はこんな取組をしている、こんなことに着目しているんだということを伝えられる、それが広報の役割ではないかと、私を含め参加した多くが感じているようでした。

また、まちの問題に気づいていない地域住民に、問題を視覚化して伝えることであつたり、何かの悩みを抱える当事者

に対して、自分と同じように悩んでいる人がいるというような気づきを得てもらう、というような役割もあげられました。こうした広報紙の役割を社協内で共有するために必要なことを話し合った際は、社協内で共有することの難しさを共感しあうことができました。そして、実践報告等から共有するために重要な部分を抽出していきました。各グループから出た意見は、一つの課に任せず役割を広く持たせる、職員研修を行う、年間計画を立てる等が出ました。

グループワークの中で広報の役割を話し合った時は、「こんな役割がある」と



このような意見だけでなく、「社協の広報はこうあってほしい」というような私達の希望も含まれていたように感じます。しかし、広報担当者である私達もつ思いを、実際に社協全体で共有していくことの難しさを改めて感じさせられました。

自分の社協の広報紙をふり返りながら、反省することも改めて気づかされることも、様々ありました。学んだことを持ち帰り、自分達の地域の社協らしい広報紙のあり方を模索しながら、広報紙を作成していきたいと思えます。





【福岡県ひきこもり者支援実施社協連絡会】

「地域に取り残された
課題に向き合う」

と き 2016年2月17日 (水)

13:00 ~ 17:00

ところ 嘉麻市社協・寄ってこハウス

嘉麻市社協・寄ってこハウスにて、
第1回福岡県ひきこもり者支援実施社
協連絡会を行い、11社協14名が集いま
した。

■報告 木原靖世／嘉麻市社協

ひきこもり者支援を行っている社協や
これから行う予定がある社協の担当者
が、取り組みを進めていく上での悩みや
課題を2つのグループに分かれて話し合
い、次のような様々な意見がありました。

- ・ 仕事を通じて、地域担当職員だけでな
く、他部署の職員も当事者に出会って
いる。職員自主研修を行い、それぞれ
の職種で関わってほしいこと、気を付
けることを伝えている
- ・ 近くに相談できるところがなければ、
一歩踏み出せないのではないかと
継続してきたからこそ、他機関とのつ
ながりが深まってきた
- ・ 訪問支援は基本だが、どこにでも訪問
するわけではない。アウトリーチ前の
段階も大事
- ・ 本人の気持ちを尊重するためには、時
間をかけて信頼関係を築くことが大事
- ・ 市外の方だが、菓をもすがる思いで相
談されるので、対応している。地元の
社協と連携できないだろうか

- ・ 地元社協には相談しにくい人がいるの
では。広域の取り組みも必要
- ・ コミュニティが孤立を生み出している
ケースもある。本人が家族に遠慮して、
困っていることを発信できない

- ・ ソーシャルインクルージョンで支援を
考えると、社会の側に立ち、こつちに
おいでという上から目線での支援にな
るのではないかと。本人の側からこの課
題を考えていかなければならない

みなさんのお話を伺う中で、仕事を通
じて困りごとを抱えている方と出会って
いることや、当事者が困っていると言
い出せない地域のまなざしがあることに対
して何もできないことなど、社協職員と
しての自分自身を振り返ることができま
した。

また、何もできない社協だからこそ、
一緒に悩み、この課題を地域の問題とし
て考えていくことが大切になることやど
の立ち位置で助けてと言えない方たちと
向き合うのかを考えさせられました。



【実習指導者向け研修会】

次世代の福祉の担い手となる
実習生に社協ワーカーは何を
伝えることができるのか。

と き 2016年6月15日 (水)

10:30 ~ 17:00

ところ クローバープラザ

「通底的プログラミングと社協の実習指導について考える」と題した研修会に参加させていただきました。現在社協は、将来社会福祉士を目指す学生が行く主要な実習機関の一つとなっており、実習機関である社協は、実習生にどういった実習をする必要があるのかということ学ぶ内容でした。

■報告 宿利幸央／志免町社協

午前中は、古賀市社協の多田さんより、社協における実習の現状や通底的4領域プログラムについて講義がありました。社会福祉士実習を行う機関は事前に有料の講習を受講する必要がありますが、現在福岡県内60社協中、31社協しか講習を受講していない状況にあるそうです。社協によっては実習生受け入れの考え方が異なり、「何故忙しい時間を割いて実習生を受け入れなければいけないのか」、「実習生を受け入れるために何故お金を払って講習を受講しなければならないのか」と考える社協もあるようです。しかし、実習生を受け入れるということは、考え方によって大きな成果もあると言われています。1つ目は、実習生に教える、伝えるために現在の社協活動を振り返ることが出来るということ。2つ目は長時間かけて地域住民へ福祉教育が出来るということなのです。

この様に考えることが出来れば、社協活動を整理し住民に伝えることも、福祉教育も通常の社協活動で行っていることであり、日常業務の一環であると捉えることができるのだと考えることができるかと思えます。

社会福祉士本来の役割をどう伝えるのか・・・

「通底的4領域のプログラム」とは何か、これが今回の研修の中心となったわけですが、講義を受けた私なりの解釈と



しては、実習先の特性に沿ったソーシャルワークを教えるスペシフィックなソーシャルワークから、今後はジェネリックなソーシャルワークを教えていくことが必要であるということ。簡単に言うと、実習生が将来どこの機関に行くことになったとしても、社会福祉士本来の役割、ソーシャルワークは変わらず、それらを総体的に伝えていく必要があるとのことでした。

通底的4領域とは、①個別支援（ニーズキャッチ、アセスメント、モニタリング、アウトリーチなどの技術）②権利擁護・サービス向上（人権への配慮、虐待防止、苦情解決システム、第三者委員会などに関する事）③地域支援（セルフヘルプ、ソーシャルアクション、地域アセスメント、ボランティア、コーディネートなど）、④連携・ネットワーキング（関係機関との連携、関係機関同士の連携、多様なネットワークなどに関する事）を指します。

午後からは、実習生を送り出す立場にある学校の先生（麻生医療福祉専門学校 前田先生）、社協で実習経験があり社協に就職したワーカー（うきは市社協 中川さん、久留米市社協 荒木さん）、実習生の受け入れを行っている社協ワーカー（筑後市社協 卜部さん）によるパネルディスカッションがありました。

それぞれの立場から様々な話がありましたが、全体的な要点としては、「福祉職を目指す学生の減少」、「少ない実習時間で社協は実習生に何を伝える必要があるのか」、「社協だからこそ伝えることができることは何か」ということだったかと思えます。

筑後市社協の卜部さんは、社協はコミュニティワーク、コミュニケーションが二重の団体であり、事業を伝えるということだけではなく、それらを展開する社協ワーカーの視点、手法について伝えていくということが大切であり、最終的には実習生自身が自分の言葉で「社会福祉とは」「社協とは」「地域福祉とは」「コミュニティワークとは」について語れるようになってほしいと言われました。これらのことを伝えるために、大前提として、実習を受け入れる社協自身が、そしてワーカー自身が常にそのことを意識し、コミュニティワークを展開している必要があるかと思えます。

次世代の福祉の担い手になる実習生に私達は何を伝えることができるのか。それは日々の活動の集大成であるかと思えます。実習生を受け入れることの意義を理解し、多くの社協で実習生の受け入れを行い、県全体でレベルアップしていくことができればと思います。

先輩ワーカーからのメッセージコーナー

「日々の社協活動を前向きに頑張るために！」



須恵町社会福祉協議会
事務局次長 岐部健一

全国的にまだまだ残暑が続いていますが、各社協職員のみなさん日々元気で頑張っておられますか？私が須恵町社協に入職したのは23年前の4月。直前職は老健施設の相談員をしていましたが、ある法人の理事長からの電話で須恵町社協に身を置くようになって現在に至っています。

高校を卒業しての営業職時代、自立支援学校での勤務時代、再度学び直した学生時代、老健施設での相談員時代、振り返るといつの時代も生きて行く上で必要だと感じるのは、気持ちの強さと、即ち精神力の強さと柔軟な考え方を持つことです。

社協活動は、地域福祉活動という大枠の中の個別支援・集団支援に大別され、時代の流れに逆行しているような活動（声掛け・見守り・支え合い）等を推し進めているわけですから、課題も直ぐには解決しませんし、我々社協職員が思い描くような温もりある地域がそう簡単に形成されるはずもありません。時には気持ちも折れ、モチベーションもダダ下がりです。そこで大事になるのが見通しをもった「なにくそ」の気持ちだと思うんです。

私は約10年前から健康とダイエットのためにランニングを始め、当時92kgあった体重も今は72kg。毎年一回はフルマラソンを走っていますが、毎回30kmを越える地点に差し掛かると、すう〜と力が抜け数回目のランニングハイ状態になります。しかし、そこまでの道のりは自分との闘いです。

フルマラソンを走る目的は、他のランナーたちと走りを楽しむためと、自分の気持ちの弱さに勝つためですが、「折れない気持ち」を持つには、人それぞれ方法は違っても自分なりの目標を決め、そのことに向かってチャレンジすることが大切だと思いますし、達成した時の喜びと充実感、日々の業務の中で辛いことや心が折れそうになりかけた時に自分を奮い立たせてくれるはずですよ。

動けること、働けること、頑張れることに感謝し、時には初心に戻って日々の活動を前向きにがんばりましょう。頼られる社協マンでありつづけるために。

「毒を吐く俺が毒されている!!」



うきは市社会福祉協議会
地域福祉課相談支援係主査 國武竜一

社会福祉法人の社会貢献活動を検討し、地元の地域福祉発展に寄与するとして、市内の各法人と課題を協議しながらその内容を検討しているが、障害者福祉施設や生活困窮者支援の分野から、「当事者が施設や仕事から離れた時間（時間外や週末）の居場所」について課題提起されている。

ある当事者の金銭管理を行っているが、お金を渡した後の食費以外の使い途は「パチンコ」で、こちらから「他に何か楽しいことはないの」と言っても、パチンコか携帯ゲーム以外には何も無いと言う。そういう状況から、より健全な週末などの過ごし方を考えることになるが、まずは自分に置き換えてみると、友人と釣りに行く、家族でドライブや買い物、有志とボランティア活動などの他、地域の行事や農地の耕作・除草など区役（くやく）としての出事（でごと）もある。

当事者の立場と比べると、幼少期より障害によってずっと“いじめ”にあたりたことで、“友人”のいる気配が無く、仲の良い誰かと一緒に何かを楽しむということ自体、そもそも難しい条件かもしれない。また、地域の出事も「障害があるから」と、地域の思いやりで暗黙の中で免除された結果、皆が行う区役から自然排除され、他者との交わりの機会を失ってしまったのかもしれない。

また、私たち福祉職の人間が言う「健全な過ごし方」の考え方自体、私たち基準で作られた危ういものであり、そもそも周囲の人的環境が整っていなければ、そうそう一般的な健全な過ごし方を獲得することはとても難しいことのように思える。

最初は、土日に福祉センターや福祉施設の空き部屋を開放して居場所を作り、そこにボランティアの方々と集って、クラフトをしたり料理をしたり、楽しい時間を演出すればと安易に考えていたが、根本的に「福祉業界の通念」に毒された自分に気づかされている。あなたも毒されてはいないか？

地域福祉担当職員研修会（6回シリーズ研修）

これからの“地域福祉”をより深く学び 私たちの考え方を再構築していく研修会

私たちはそれぞれの社協で“社協の仕事”をしています。その仕事は“地域福祉”なのか、しっかりと考える機会があるのでしょうか？

個別ケースへの対応や、事業を担当として任されると、業務を消化していくことが仕事なのだと思います。それ以外のことが見えにくくなってしまい、住民目線で様々な生活課題に踏み込むことが困難となっているのではないのでしょうか。

研修会では“地域福祉とは”という基本的な考え方はもちろん、皆さんが日頃取り組んでいる社協事業の意味を再認識するとともに、課題や疑問も検討し、尚且つ今まで接点がなかった課題に対して一歩踏み込めるよう、参加者全員で継続的な学び合いを刺激的に行います。

【講師】 小野 達也 先生（大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類 教授）

【内容】

	日時	会場	内容（概要）
①	9月6日（火） 10：30～16：30	福岡市商工会議所 406	地域福祉の基本的な 考え方について学ぶ（1）
②	10月24日（月） 10：30～16：30	福岡市商工会議所 B1-b	地域福祉の基本的な 考え方について学ぶ（2）
③	11月21日（月） 10：30～16：30	福岡市商工会議所 B1-b	増進型地域福祉の考え方について学ぶ
④	12月19日（月） 10：30～16：30	福岡市商工会議所 B1-b	増進型地域福祉のワークショップ
⑤	平成29年1月16日（月） ～1月17日（火）	うきは市社会福祉協議会	フィールドワーク （★日程等は追ってお伝えします）
⑥	平成29年2月20日（月） 10：30～16：30	福岡市商工会議所 B1-b	まとめ

※内容については、一部変更になる可能性があります。

【問合せ】

○香春町社会福祉協議会（担当：建部）

TEL：0947-32-4616 FAX：0947-32-5414

○福岡県社会福祉協議会 地域福祉部 地域課（担当：岡山）

TEL：092-584-3377 FAX：092-584-3369

【主催】 福岡県地域福祉活動職員連絡会 社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

★発行者

福岡県地域福祉活動職員連絡会

★事務局

〒830-1201

福岡県三井郡大刀洗町富多819ぬくもりの館

大刀洗町社会福祉協議会内 担当：池松

TEL 0942-77-4877

FAX 0942-77-6220

E-mail tachi-shakyo@kurume.ktarn.or.jp

URL http://www.geocities.jp/f_chishokuren/

熊本地震における益城町災害ボランティアセンター支援に入った際に、地元の方がつぶやかれた「地域がこわれてしまった…」という言葉。

このつぶやきを聞いた時に、地震災害の本当のつらさを知るとともに、失われた「暮らし」や「地域」を取り戻すための災害ボランティアと社協の役割を痛感させられる瞬間でした。

自分は日頃から、社協マンとして「暮らし」や「地域」を真に意識できているのだろうか。「暮らし」を自分のスケールで計っていないだろうか？

（E・S）

編集後記